

令和5年度 微生物学教科担当教員会議 議事録

日時：2024年3月30日（土）12:10~13:00

場所：パシフィコ横浜 413 会議室

出席者：58名

配布資料：添付1

議題1 令和6年度 微生物学教科担当教員会議事務局について

令和6年度の事務局として九州大学 尾崎 省吾 先生が、世話人代表の広島大学 黒田 照夫 先生より推薦され、承認された。

世話人として黒田照夫先生（広島大学）、杉田隆先生（明治薬科大学）、西野邦彦先生（大阪大学）の3名が引き続き担当すること、東京理科大学 野口 耕司 先生が、東北医科薬科大学 久下 周佐 先生から交代することが承認された。また世話人4名の互選により世話人代表は広島大学 黒田 照夫 先生が務めることとなった。

議題2 教科担当教員中央会議について

黒田先生から教科担当教員中央会議の報告があった。改訂モデル・コア・カリキュラムの円滑な実施に向けた活動について、①コアとして適切かつ必要と考えられる実習や演習内容に関する議論をまとめること、②カリキュラム作成上で工夫されたことなど良い事例、共有すべきことを恒常的に議論していただきたい、③次期の改訂に際して資料となるように恒常的に議論していただきたい、との本間代表理事

の発言の報告を受けた。

議題3 微生物学シンポジウムについて

愛知学院大学 河村 好章 先生の司会のもと、岡山大学 垣内 力 先生から令和5年度第35回微生物シンポジウム開催の報告があった。引き続き、東京薬科大学 中南 秀将 先生より令和6年度第36回微生物シンポジウムの案内があった。令和7年度第37回微生物シンポジウムは、実行委員長の大阪大学 西野 邦彦 先生から大阪万博があるので開催時期は11月ごろを予定していると報告があった。

議題4 生物系薬学部冠付きシンポジウムの実施について

河村先生より第一回のシンポジウムとしてこの会議の後にS37「生物系薬学部会・微生物学シンポジウム マイクロバイオームから紐解く新しい病態の理解と新規治療戦略」が開催されることの告知があった。黒田先生より来年の世話人として京都薬科大学 八尋 錦之助 先生にお願いすることが提案され承認された。

議題5 教育に関して

同志社女子大学 川崎 清史 先生より、東京化学同人から「新スタンダード薬学シリーズ」が新コアカリに対応して出版されることが報告された。

議題6 研究に関して

特に報告はなし。

議題7 共用試験に関して

広島国際大学 山中 浩泰 先生より、共用試験改革に関する提案の報告があった。

「標準的な学修内容」はほぼ同じであり、これまでに CBT で使われている多くの問題が 2027(令和 9)年度以降でも使用可能で、2027(令和 9)年度からの CBT は現在と大きな変化はなく公平性等が維持できる試験となる。OSCE で出題していた調剤に関する計算問題は基本的に CBT に移行させ、「D-6 個別最適化の基本となる調剤」で出題するとのこと。

令和 4 年度版コアカリでは学修事項が記載されているので、学修事項を基本として「カテゴリー」が作成された。2023(令和 5)年度の問題作成は SBOs ベースであったが、今後はカテゴリーベースに変換していく予定とのこと。

2027(令和 9)年度以降の OSCE 実施については、十分に議論を進めながら順次検討していくとのこと。

議題8 その他

河村先生より日本細菌学会からの「病原体等安全取扱・管理指針」の BSL 一覧表が配布された。大学・研究施設での微生物管理委員会・DNA 組換え管理委員会の参考、分離された細菌のバイオセーフティレベルの確認などに活用していただきたい。

